

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会 産業建設分科会		会議場所 第3委員会室 担当職員 佐藤
日 時	令和元年9月18日(水曜日)	開 議	午後 1時 30 分
		閉 議	午後 2時 35 分
出席委員	◎小川、○奥野、田中、赤坂、藤本、竹田、菱田		
出席理事者			
出席事務局	山内事務局長、鈴木議事調査係長、佐藤主任		
傍聴者	市民1名	報道関係者0名	議員2名(三宅、浅田)

会 議 の 概 要

1 3 : 3 0

1 開議

2 事務事業評価選定事業の論点整理

[事務局説明]

事務事業評価では、限られた時間の中で説明・質疑、その後の委員間での議論を通じて評価結果をまとめるということから、時間上の制約もあるため、議論の焦点とすべきことを事前に整理しておく必要がある。当日、論点に沿った質疑、適切な評価ができるよう、これより論点整理を行っていただきたい。

(1) バス交通関連経費

<小川委員長>

事務局から論点整理資料の説明を。

<事務局主任>

(資料説明)

<小川委員長>

論点について意見は。

<藤本委員>

人口が減っていく中で、公共交通の必要性は高まる。予算は限られているので、どのように配分していくか、どこに重点を充てていくか明確にしてもらいたい。例えば、中心部のみバスを走らせ、山間部などは、行政が資金を投入して地域で移動手段の確立ができないか。デマンドタクシーなど業者に委託していくのかどうかの考え方を聞きたい。今のまま続けるのではなく、見直して継続してもらいたいとの思いから選定した。

<小川委員長>

現在の利用状況や地域公共交通の考え方を聞いていくとの意見が出たが、ほかの意見は。

<赤坂委員>

東別院町は、デマンドで行っているが、マニュアルがないからどうしたらいいかわからないときがあると言っていた。行政はどのように関わっていくのか聞きたい。

<藤本委員>

人口が減って、市税収入がどんどん減っていく中、1億円を超える補助金と委託料を払って、どれだけの収益があるのか聞きたい。市民の足を確保するための方法をしっかりと検討していくべきである。

<小川委員長>

どれだけの効果があったのか。また、デマンドを含めた地域交通の取り組みを論点として挙げてはどうかとの意見が出たが、ほかはどうか。

<竹田委員>

公共交通対策特別委員会があるので、そちらと同じことをしていても意味がない。拡大する要望にどう対応するのか論議できたらよいと思う。本会議で地域交通は限界であるとの部長答弁があった。あとは福祉的なことに委ねなければというニュアンスで言われた記憶がある。その辺りをどう見ていくか、産業の分野なのか福祉の分野なのか、すみ分けがどうなるのか、今後の部分をしっかりと深めていきたい。

<小川委員長>

拡大する要望にどう対応していくのかのビジョンを論点としてはどうかとの意見が出たが、ほかの意見は。

<赤坂委員>

行政が丁寧に指導して、バスが無くなる前に、システムをつくり、地元につなげていく。最終的に福祉の分野になると思う。公共交通対策特別委員会と重複しても地元と行政が連携を取りながら動いてほしい。

<藤本委員>

執行部が今後の課題として、市民の移動手段の確保と維持可能な公共交通の構築を挙げている。地元と協力して、取り組んでほしい。

<小川委員長>

まとめていく。1点目、利用状況とどれだけの効果があったのか。2点目、市民の移動手段の確保と持続可能な公共交通のあり方でどうか。

<赤坂委員>

路線が減っていく前に、どう対処するのも必要では。

<藤本委員>

今後の維持確保を地域でどう対応していくのか、行政が行うのか聞いていきたい。

<小川委員長>

デマンドを含めたその他の方向性についての考え方を論点としていく。

(2) 商工業振興対策経費

<小川委員長>

事務局から論点整理資料の説明を。

<事務局主任>

(資料説明)

<小川委員長>

論点について意見は。

<赤坂委員>

花火大会に多くの人 coming が、ごみしか残っていない。収益をどのように上げていくのか、にぎわいづくりとは何かを聞きたい。

<小川委員長>

花火大会の経済効果はどうか。にぎわいづくりをどのように考えているのかという意見が出たが、ほかはどうか。

<田中委員>

企業立地等奨励金は、亀岡以外に本社があるのは何社なのか。本社が亀岡になれば、収益を上げてあまり効果がない。亀岡に本社があるところをどうしていくか考える必要がある。いろいろな補助金があるが、有効に支出した補助金の成果が表れているのか指標がほしい。精査が必要であると考えます。

<奥野副委員長>

年度ごとの総括がほしい。

<藤本委員>

観光客の消費拡大に結び付けていく取り組みが必要である。駅南の活性化が重要になってくる。

<小川委員長>

まとめると、各補助金の総括ができていないのか。企業立地等奨励金の詳細とにぎわいづくりとは何か。地域商店街にぎわいづくり支援事業はどのような消費に結びついているのかを論点とする。

(3) 観光推進経費

<小川委員長>

事務局から論点整理資料の説明を。

<事務局主任>

(資料説明)

<小川委員長>

論点について意見は。

<赤坂委員>

観光消費額が少ないことをどのように考えているのか。各補助金の詳細が知りたい。危機感を持って取り組んでもらいたい。

<小川委員長>

経費の詳細と成果・効果について論点としたいとの意見が出たがどうか。

<藤本委員>

誘客と誘導の仕方をわかっていないので、ホテルを建てても、7割の稼働率を保てない。

<赤坂委員>

事業をしていないので、観光客を呼べていない。もっとハングリー精神を持って取り組んでもらいたい。

<奥野副委員長>

平成30年度の新規事業について、成果と効果を論点としてはどうか。

<菱田委員>

観光協会の補助経費は、成果が出ていないのではなく、見せられていないと思う。亀岡に少しずつ観光客が来ていることを実感している。事業の成果・効果をどのように担当部署として見ているのかを論点としてはどうか。森の京都DMOと森のステーションかめおかに対する補助金の額が大きいので、活動内容と事業効果が得られているのか、今後どういう期待ができるのかを論点としてみてはどうか。森のステーションかめおかについては、自立の見通しも論点としてはどうか。

<小川委員長>

まとめると「観光協会補助経費は、事業成果・効果をどのように評価しているのか」「森の京都DMOについては、活動内容と事業効果をどのように期待しているのか」

か」「森のステーションかめおかについて、効果と自立の見通し」「新規事業の成果・効果」の4つを論点とする。

3 その他

(1) 審査日程

[事務局 決算審査日程説明] (了)

<小川委員長>

その他、事務局から連絡事項はあるか。

<事務局主任>

地方創生関連交付金等の資料を配付した。明日からの決算審査に持参願う。また、決算カードも配付している。暫定値ではあるが、決算審査の参考にされたい。なお、明日10時からの決算全体会には、提出予定議案の概要を持参願う。また、分科会の事務事業評価では、まちづくり交通課の資料も持参願う。

～散会 14:35